



香葉

第3号

通算34号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子
代表 横浜市金沢区
六浦東1-50-1
直通 045-787-7859
FAX 045-787-0678

E-mail: kouyoukai@nifty.com
URL: http://homepage3.nifty.com/kouyoukai/

- 日程 平成17年11月5日(土)
- 時間 午後1時集合
- 場所 JR大磯駅(東海道線)
- 会費 1,000円(資料・保険代含)
- 申し込み方法

香葉会事務局までFAX・はがき・
Eメールで申し込み下さい。
準備の都合上**10月25日(火)**までに
お願い致します。
FAX 045-787-0678

昔ながらの大磯駅、歴史を感じる
町並み・松並木。横浜の地をはなれ
て、ゆったりとのんびりと駅伝の四
区を歩いてみましょう。夏を惜しむ
ようにちよっぴり海辺に降りてみて
も…!! 楽しい一時を、ご主人とお
子様と一緒に参加してみませんか。
ひとりでも友達同士でも大歓迎です。



陶芸教室

- 日程 平成17年11月3日(土)
平成17年12月3日(土)
 - 時間 午前10時から午後3時
 - 場所 関東学院大学
室の木7号館
 - 会費 3,000円
 - 持ち物 エプロン・お手拭き・
昼食
 - 申し込み方法
同上
- 締め切りは**10月25日(火)**まで。

田中喜芳先生(ニューポート国際
大学大学院客員教授)をKGU関内
メディアセンターにお招きして、英
国の文学にふれてみましょう。皆様
ごぞんじのシャー
ロック・ホーム
ズの物語。難し
い謎解きも、軽
快に…!!
田中先生は、
関東学院高校の
英語の授業でホー
ムズの世界に…。
詳しくは当日。

- 日程 平成17年11月19日(土)
- 時間 午後2時から午後4時
- 場所 KGU関内メディアセンター
横浜市中区太田町2-23-1
- 会費 無料
- 申し込み方法 同上

締め切りは**11月9日(火)**まで。

講演会



写真 学報29号より

『シャーロックホームズの世界へ』

こものづくり

- 日程 平成17年10月22日(土)
 - 時間 午前10時30分から
午後3時30分
 - 場所 室の木2号館403号室
 - 会費 500円(保険代含)
材料費 別途(1,000円
以内)
 - 持ち物 エプロン・針と糸・
はさみ・昼食
 - 申し込み方法
同上
- 締め切りは**10月12日(火)**まで。

「香葉の部屋」で飾られていたク
リスマスのオーナメント・リースな
ど、早目に準備してみませんか。一
日で完成(?)…!!
すてきな作品ができるかな?
募集人数は三十名位。講師は香葉
会のメンバーです。



募集人数は二十名位です。家族友
人等、参加は自由です。(左上参照)
考えて来て下さい。
今年の十一月三日(木・祝)は、陶
芸棟で土をこねながら過しませんか。
金沢八景キャンパスでは大学祭
(平潟祭)が開かれています…。
十一月三日だけの参加もお受けで
きます。(色付けと仕上げをおまか
せいただきます。)なにを作るか…





会長挨拶

山口 佳子 (国一)



冊子「香葉」がタブloid版となつて今回は第三号となりました。

それは関東学院女子短期大学を母体として、関東学院人間環境学部(以後学部とする)へ改組転換となつてから三年を経過したということになります。学年完成年度となった今、四年生は短大からうつっていらした方達を含めて学部として就職へのチャレンジが始まっています。関東学院

大学では新学部となりますので学生たちがどのような進路を見出しているのかは衆目に値し私たち短大同窓会として温かく見守っている事を強く訴えていきたいところです。

昨年第二号発行の折に吉田人間環境学部長から「香葉会に期待すること」を二つのべていただきました。一つは人間環境学部は短大五〇余年の歴史があればこそ存在する。二つめは香葉会の先輩諸氏が残した母校を大切に思う心を持ち続けることでした。

時は流れても青春を同じキャンパスで過ごした者には共通の感慨が厳然と存在し多感な時期を多くの師と友達に恵まれたことを今更のように

思わずにいられません。

昨年、行われたフェアウェルパーティでの冊子「あの日・あの時」の別紙(欠席された方の言葉)を拝見しても良き時を過ごし学校を思う気持ちに溢れています。

短大同窓会は生き続けることが大事とも言っていたいています。今がとて大事です。本当に新たなスタートを切ったのですから…

女性として、女性であるが故の様々なことがあります。様々な年代の女性が存在する同窓会はお互いにわかりあえる場と言えるのではないでしょう。卒業生が帰ってくる場所安らぎや再度のスタートを応援する場でありたいと常に願っています。

さて今年度もいろいろ参加いただけるよう考えました。はじめに、日本では数少ない世界公認のシャロックホームズ研究家(三春台出身)田中喜芳先生の講演会をKGUメディアセンターで開きます。大学祭の日一残念ながら元短大校舎はその場所として使われておりませんが、陶芸棟にて好評の陶芸教室を行います。ほかにクリスマスにあわせて「こ

登る途中)に女子短期大学のプレートが、木立の中に完成しています。思い出の文字をきざんで…



ものづくり」をします。また秋の一日を大磯の散策で過ごしませんか? エリザベスサンダースホーム(澤田記念館)、鳴立庵、島崎藤村終焉の家や明治、大正期の別荘を見て歩きます。「日本画教室」も継続しております。それぞれお子様、ご主人、お孫さんの参加も大歓迎です。又今年三月なくなりました上市先生の追悼冊子「覚え書」も引き続き作成中です。(追悼会にてお渡し致します。)

香葉会のホームページ、メールをごらん頂いていますでしょうか? 関東学院のホームページともリンクさせていただき探しやすいなっています。学校のニュース、香葉で企画することを随時載せてまいります。最後になりましたが、香葉会の活動は皆様からの年会費でまかなわれております。KGUメディアセンターといった場所を積極的に使用し参加しやすい環境をつくっていくために皆様のご協力をお願いいたします。

二〇〇二年、室の木校地に人間環境学部の学生が入学して(もう?まだ?)四年目。昨年三月に最後の女子短大生が卒業するとすぐに門標が女子短大から「関東学院大学人間環境学部」に、そして、九月末日付で女子短期大学の廃止が文部科学大臣により認可されました。

学部となり一号館の学生ホールを始め、いくつかの実習室、教室が新しい先生方の研究室に模様替え。また共学となり三五%強の男子学生が女子学生と共に和気藹々と過ごす姿もよく見かけます。短大当時の職員も今では少数派ですが、清潔なキャンパス、挨拶を交わす学生達など女子短大時代のよいところはまだまだそのまま引継がれています。

女子短大時代のあれこれが少しずつ変わっていきませんが、変わることは活動していることの証。来春には学部初の卒業生が社会にはばたきます。女子短大の実践的教育の精神を受け継ぐ彼らを暖かく迎え入れ、応援してください。

「もう」なのでしょうか、「まだ」なのでしょうか。

関東学院大学事務次長
(旧短大事務次長)

中 村 英 夫

初心者マークのアメリカ生活

元幹事長 井上 啓子 (家26)

香葉会の皆さま、お元気でいらっしゃいますか。

平成十六年末まで幹事長を務めさせていだきました家政科卒業の井上です。

夫の米国転勤に伴い、長年お世話になりました関東学院大学での奉職に区切りを付け、香葉会での職務も一時「休止」という形をとらせていただきました。

さて、私は現在、米国カリフォルニア州ロサンゼルスに居ります。

ロサンゼルスと言われるとハリウッドやビバリーヒルズを想像されると思いますが、私達家族が住んでいる



ところは「トーレンス」という市で、観光ガイドブックでは見事に詳細地図から省かれている場所です。

日本の福岡県と同緯度くらいに位置し、気候は温暖で湿度がなく爽やかな風が吹き抜けます。西には太平洋、東にはネバダの砂漠地帯を有する、日本がすっぽり入ってしまう広さの州です。

トーレンスに住んで半年が経ちます。ロサンゼルス通信と言つにはチョットおこがましいのですが、私を感じた異文化生活を報告させていただきます。

「」は本当にアメリカ?

スーパーマーケットの館内放送「けいこさん、カスターマーサービスピリーズ!サンキューウ!」そして「ダイコン一本1ドル」「新鮮なお刺身お買い得」等々の表示。ここでは何ん自由なく日本の家庭料理を作ることができません。

私達が住んでいる家から車で三十分以内このような、それなりに大きな日系マーケットが五軒あり、我が家は毎日炊き立てご飯とお味噌汁の献立です。

でも日本に居た頃には見たことがないような商品もあり、興味津々で買物をしています。これは良く考えると当たり前なのですが、日本に居た頃は「関東地方」で出回る商品が自分にとっての「日本」でしたが(横浜に住んでいました)海外に出

ると全国の商品が「日本」という一くくりに示されるため、初めて見るご当地商品も多くなるというわけですね。

まずは挨拶!

こちらに来て一番気をつけていることは「挨拶」です。今住んでいるアパートで行き会う方、家の管理をしてくださる皆さんとは、気軽にハローと挨拶します。挨拶しないと怪しい人間と思われてしまうそうです。でも不思議なことに相手の方が日本の方だと、途端に恥ずかしくなってしまう、軽く会釈する程度にとどめてしまいます。英語が下手なのに「ハロー」なんて、ちょっとねえ、と、いらぬ気を遣っています。

この「恥ずかしい」という感情は日本人独特のものなのでしょう。でも本当は恥ずかしがらずに声を出すべきだろうと、頭では分かっているてもなかなか実行に移せない自分でもどかしい日々です。

当然ながら車は右側走行

日本と決定的に違うのは車が左ハンドルの右側走行ということ。分かってはいるのに日本の運転が染み付いた身にはこれが結構緊張します。

主要道路は片側五、六車線あり、道幅も広いので運転しやすいのですが、その分平均速度が速く、時速六十キロくらいで飛ばしているの、最初は怖かったです。



こちらでは赤信号でも基本的に右折ができる(日本では左折に当たる操作)のですが、これが私には鬼門でした。右折の失敗で運転免許取得にずいぶん苦労しました。

でも今では何とか慣れ、生意気にもサングラスを掛けて同じように飛ばしています。(要注意ですね)

E.S.L

私には娘が一人居り、昨年高校二年の夏に転校しました。今は現地高校に通っています。アメリカでは高校卒業までが義務教育で、英語を母国語としない人達のためにイングリッシュ・セカンド・ランゲージというクラスがどこの学校にも当たり前のようにあります。

公立なので学費や教科書代が無料です。教科書は日本の百科事典並みの大きさと重さの本を一年間学校図

実体験型取材
2005

『光と風』

三春台校舎をたずねて

浦上 恵 (経情10)

誰もが放つことの出来る光。けれど、限られた月日の中でしか放つことの出来ない光。

それは、とてもとても青く澄んでいて、眩しすぎる光。

誰もが感じるこの出来る風。けれど、限られた場所にしか吹かない風。

それは、とてもとても爽やかで、心地のいい懐かしい風。

夏を思わせるような日差しの中、横浜の丘の上に建つ白く光る建物『関東学院中学校高等学校―三春台校地―』に今回はお邪魔して来ました。

京浜急行の車内から見上げる三春台校舎はとても印象的で、今では街のシンボルとなっています。

その校舎は横浜にゆかりのある「J・Hモーガン技師」による設計で、モーガン独特の造形があらゆる箇所で見えます。中でも最も目を引くのは平成三年に横浜市より「歴史的建造物」の認定を受けている「現中学校本館校舎」です。四つの塔が印象的な中世イギリスのノルマン建築風のその校舎は、ツタを絡め、長い年月そこで見てきた様々な



出来事をゆっくりと語りかけてくるように静かに、静かに、佇んでいます。

今回はご厚意で校舎内を見学させて頂いただけでなく、その四つの塔まで上がらせて頂く事が出来ました。最上階に上がると、そこはチャペルでした。その佇まいはとても素晴らしく、まるで映画のワンシーンの舞台にでもなりそうな程厳かで、歴史の重みを感じる場所でした。そのチャペルの奥にある鍵の掛けられた一つの古いドアを開けて、狭くて暗い階段を息を切らせて(日ごろの運動不足が如実に...)上って行くと思

(Part2)

書館から借ります。毎日ずっしりと重たい教科書を大きなリュックサックに入れ、登山をするときのように少し前かがみで通学しています。強靱な足腰になりますね!

先生方が個別の教室を持っており、授業毎に教室を移動します。しかも時間割は生徒一人ひとり違いますので、授業が終わるたびに生徒たちは短い移動時間の中で、あっちへ行ったりこっちへ来たりしているのとことです。移動時間は七分間程です。二階建ての教室がいくつもの棟を作り、扇状に広がっているのです。その移動距離は結構なものようです。もちろん授業は全て英語で受けていますので、一番生きた英語に接しているのは子供たちということですね。

先輩方に感謝

公立校で現地の方々と同じように教育が受けられるのも、日本食を何となく食べられるのも、長年諸外国の人々を受け入れ、人種のもつほと言われるここカリフォルニアだからこそこのことです。駐在員家族にとっては本当にありがたいことです。私も運転免許の筆記試験は日本語で受けました。筆記試験の部屋には何ヶ国語にも訳された試験用紙が用意してありました。

ここまで日本人が生活しやすくなるまでには、先達のご苦労とパワーがあったればこそだと思います。実際ここでは日本の物があちこちで目

につきます。特に日本車の多さといったら半端ではありません。でも「日本車」と意識はせず乗っているのだと思います。ほとんど現地生産です。でも、作りが良いので購入しているのでしょう。

ものづくりに対しての緻密で丁寧な仕事は流石に日本人!と、改めて感心させられています。

つれづれなるままに今の生活を綴ってみましたが、そんなに遠くにいないような気がしない毎日を元気に過ごしています。まだ初心者マークを付けて様々なことを先輩在任者に伺いながら、新しい発見に一喜一憂している日々です。

私は中学、高校、短大、そして職場として関東学院院でお世話になりました。社会人になってからは香葉会の役員として微力ながら学校と卒業生との間に携われたことは、現在の私の宝物です。たくさんの暖かいお心に感謝しつつ、今回はここで失礼いたします。

最後になりましたが、三月にご逝去された上市先生(元事務長)に心からの感謝とご冥福をお祈り申し上げます。

そして、元役員として香葉会の活動に会員皆さまのお力を期待し、ご報告とさせていただきます。どうぞ香葉会をよろしく願います。皆さんお元気です。



❖ わず目をつぶってしまおうほどの眩しい空の下に出ます。そこが「四つの塔」のある屋上です。相変わらずジリジリと真夏のような日差しが照り付けて来ますが、地上では全く感じるこの出来なかつた風がそこには吹いていました。その風の爽やかな事と言ったら。紫外線を大いに気にするお年頃ではありますが、日傘なんて差してる場合ではありません(笑) この風と、そして素晴らしい景色を堪能しなくては!

いつもココを見上げている真っ赤な京浜急行がビルの間を走り抜けて行く姿が見えます。そして遠くにはベイブリッジや、横浜プリンスが。もちろんみなとみらいやマリントワーも見る事が出来ます。今は遠くに見える海も、昔はすぐ側まで海だったと先輩方から伺ったことがあります。

眼下に広がる、まるでジオラマの様なこの街は、長い年月をかけて発展して来た街。その長い年月の間に起こった様々なこともこの建物は静

かに見て来たのです。戦争も見て来ました。今となってはワタシ達の様な平和ボケした若者には知る事の出来ない苦しみや悲しみをも、ただ静かに見て来たのです。そして時代が移り変わり、街がどんどん変化して行くのを、今もこうして静かに見ているのです。

でも、一つだけ変わらないものがあるのではないかと思うのです。それは学生達の生き生きとした姿が放つ「光」です。校庭を走り回る部活動中の学生達の声、練習中の楽器の音、体育館で弾むボールの音。そして笑い声。眩しい光。

中高あわせて六年間。それは長い人生にしてみればほんの小さな「点」に過ぎないかもしれませんが、それはそれは「貴重な点」で、その点が濃いか薄いかでその人生の景色も変わってしまうほど。沢山の夢を見て、飽きれるくらいにくだらないコトを考えて、胸を焦がして、いつも息切れしてしまうくらいに走って、上ばかりを見て、手を伸ばす。沢山のことに触れて、いろんな物にぶつかって、うんざりする位に考えて「人になる」、そして一生の友を得る。この六年間はそれが無条件に許された唯一の期間だと、ワタシは今思っています。

彼らの何かに一生懸命な姿は、とても青く澄んでいて、眩しい「光」を放っているのです。その「光」はその六年間限定のもので。その輝か

しさに泣けてくるくらいに素晴らしいのです。当人たちにはおそらく分かる事が不可能なことでしょうね。誰もその時は夢中過ぎて気付かないことですから。だから大人は応援したい。その眩しい光をみんなに放って欲しくて、後で自分が振り返って見た時にその輝かしさを感じられるように。それが関東学院が繋がっている理由なのかもしれない。

「人になれ 奉仕せよ」

「人になる」そしてその過程で「奉仕する」ことを学ぶ。その精神は引き継がれていく。実は同じ日に、校舎見学終了後、植村先生のご厚意でマーチングバンドのコンサートを見学させていただいた時に、強くそのことを感じました。父兄・OB・OG向けに開催された謝恩コンサートで、後日控えていた「ザ・よこはまパレード」への出場曲も含めた全六曲の演奏に、沢山の来場者が拍手喝采でした。彼らもやはり青く澄んだ眩しい光を放っていました。その眩しさと演奏に心が震えたのでした。

*

屋上で四つの塔の間に建て、目を閉じる。心地よい風が襟元を通り抜けていくのを感じる。不思議なことに見たことのないはずの景色が見えてくる。何十年も前の同じ場所からの景色。海がもつと側まであって、短い京浜急行が



ゆっくり走る。校庭からは学生達の元気な声。今も変わらないもの。学生達の生き生きとした姿が放つ「光」と、もう一つ見つけました。それはこの「風」。時代を静かに見守ってきたこの場所に通る抜ける心地よい「風」。きつとこれからも変わらずにこの場所に吹き続けるのでしよう。学生達がいる限り、この建物はこの先もずっとただ静かに、この場所で行んでいくはず。そうであって欲しいと願います。

*

誰もが放つことの出来る光。けれど、限られた月日の中でしか放つことの出来ない光。それは、とてもとても青く澄んでいて、眩しすぎる光。誰もが感じるこの出来る風。けれど、限られた場所にしか吹かない風。それは、とてもとても爽やかで、心地のいい懐かしい風。

関東学院三春台校地は、そんな「光」と「風」の満ちた素晴らしい丘なのです。

『母になつて』

佐々木 智子 (国31)

この原稿の依頼が来たのはちょうど息子が生まれてから一年が過ぎた頃でした。妊娠中は少々トラブルもあって入院したり、出産も緊急帝王切開という事で、想像していたお産とはかなり違いましたが、初めて子供の顔を見たときは「本当にこの子に会えてよかった」と思いました。



今では息子も一人で歩き、なんでも自分でやろうとしています。新生児の頃は手足も細く何とも頼りなさ気で、夜中おきては息をしているかと心配したのですが、一年も経つとすっかり『肝っ玉母さん』の仲間入りで、少々なことでは驚かなくなりました。子供との生活は、思い通りにいかないことや我慢しなくてはいけないことが、今までとは比べ物にならないく

らいあります。腰が痛くても抱っこ…掃除する端から汚してくれるし、片付けなんて出来ません。自分のことなどかまわず、子供最優先!!それでも、やっぱり笑顔を見れば可愛いし、心が温かくなります。本当に心に灯がともる感じで、優しい気持ちになれるんです。私の息子はどちらかと言えど私に似ています。私の両親も夫の両親もとても可愛がってくれます。母は息子を見ては私が小さかった頃を思い出すように「智子の時は○○だった」とよく言います。きっと、私が生まれた時は祖母が母に「雪子の時は○○だった」と言っていたのでしよう。以前にも増して親との繋がりを深く感じるようになりました。

少年犯罪が増える中『命の大切さ』の教育が必要だと言われています。しかし、命とは教育として学校で教えるものでしょうか。日々のちょっとしたことにあるのではないのでしょうか。自然と触れ合う場所もまだまだあります。動物を飼ってもいいと思います。春になれば花を見て、夏には川や海に行く、そんな普通の家族とのふれあいの中で感じる事が出来るのではないのでしょうか。切ったら血が出る、たたけば痛い、自分が嫌なことは他人も嫌なのだ、そういうことを私たちが親が手本となり子供に伝えていくことが大切だと思っております。そして、子供からまたその子供へと大切なことが受け継がれ、平和な世の中が続くよう、心から願うのです。

報告

横濱みなと物語

川上 智子 (英47)

平成十六年十二月四日(土) 午前十時関内駅北口に二十一名の参加者。天気はやや曇りでしたが、散策には丁度良い気候でした。



集合場所をスタートして、メディアセンターに向かい、施設内部の説明をして頂きました。

メディアセンター 八階で法科大学院の授業や大学の生涯教育などが行われています。また、今回は特別展として坂田記念館の資料が展示されており、歴代の宣教師の方々のクリスマスカードも展示されていました。

メディアセンターを後にして、開港記念会館にて、明治時代の素敵なステンドグラスを鑑賞しました。

その後、日本大通りを経て、県庁前にて山口会長より周りの建築物の話を伺いました。日本大通りは、関内の横浜公園と海とを結ぶ大きな通

りで、道幅が広く、車道の両側にある歩道が非常にゆったりと造られており、気持ち良く歩くことができます。足元には横浜から発信されたものがタイル絵に描かれており、黄金色に色づいた日本大通りの銀杏並木はまるでシャンゼリゼ通りのようでした。

海に向かい、大栈橋の頂点にて、みなとみらい21や山下公園を眺めました。クリスマスシーズンの広い待合室には大きなクリスマスツリーがあり記念撮影の名所となりました。

心地よい海風を受けながら、汽車道を歩きながら赤レンガ倉庫を目指します。その途中横浜税関を見ることが出来ます。横浜税関は通称「クイーン」と呼ばれ、県庁の「キング」、開港記念会館「ジャック」と併せて「ハマの三塔」と呼ばれています。「ハマの三塔」は、昔は横浜港に入港する船の目印になったそうですが、今ではビルに囲まれて港からこの三塔を一望できる場所は少なくなりました。

午後十二時半、最終到着地点の赤レンガ倉庫に到着。ここで解散となり、みなと横浜をそれぞれ満喫したのでした。

春のオリーブの会にて

若宮 禎子 (家12)



桜の開花が待たれる三月末の晴れた日曜日。家政科三十八年度卒のオリーブの会が今年も多数の御参加を得て、一年半ぶりに開催する事が出来ました。それぞれ四十年余り離れた人生を歩み乍ら、こうしてお逢いすると、一度に学生時代の二十才の頃に返ることは貴重な時間だと、一人一人のお顔を見つめていました。おいしいお料理をいただき、それぞれのテーブルでお話が盛り上がりました。私たちのテーブルでも、健康に関する事が皆の一番の関心事。心はいつまでも若いのに……この時ばかりは、現実に戻った感じでした。楽しい三時間余りは、あっという間に過ぎました。これからも健康に気をつけながら、自然体でしなやかに、楽しみ探しをしながら過ごせる事を願って、又、来年も元氣にお逢いしましょう。しっかりと、エネルギーをいただき、余韻を楽しみながら、閉会しました。

五月会

桜木谷 洋子(英2)



三月上旬より今年の五月会ご案内が三十六名に送付された。新しい企画の二次会一泊が加えられた。今年是中国料理に決定。横浜ベイシエラトン「彩龍」で十三名のご出席で楽しい昼食を頂く。二次会は京急三浦海岸のマホロバマインズ三浦へ。九州からの人気者のお一人は老人施設で太陽のような働き人。共に八名がゆったりした時を持ち得た。感謝。欠席の方々にはご報告を頂く。ご自身の体調が非常に悪い方。御心痛の方。ご主人、ご親族方の介護に懸命の方等、皆さま精いっぱい生きるお姿を思い、主の恵みを心より祈ります。本年三月二十九日関美代子様召天との悲報に接し、席上有志が「偲ぶ言葉」をつづり関頼武様へ送付申し上げます。皆で主の平安を心より祈ります。山ふところ鎌倉市十二所のお宅へ美しい花籠を献げに当番三人で出向く。

「関 頼武氏のお歌」
 平成十七年四月二十六日夜 関生
 妻逝きぬ 春山は もとのままに
 あり ながれゆく 水面をおおう
 桜かな

ちょっとお耳を拝借!



学校でサンマの缶詰を売っています!

驚かれる方も多と思いますが、そうなのです。

人間環境学部健康栄養学科で教育の一環として製造されています。

サンマの缶詰だけ



ではなく、マーマレード、イチゴジャムもつくられており、なかなか良い味です。どれも平潟祭の折に手に入れることができますが保存料の使用もなく安全でおいしいと好評です。又平潟祭では手に入れることはできませんが、関東学院カルピスといった食品もあり健康栄養学科の活気を感ずることが出来ます。

●平潟祭日程

金沢八景キャンパス 11月2日〜4日

編集後記

早いものでこの新生「香葉」も第3号の発行となりました。今でも目の前には不安や問題が山積みですが、この「香葉」を楽しみに待ってくださった方々の温かいご意見に支えられて、ここまでやってこることが出来ました。編集作業の追込みの時期というのは非常に暑い時期で、駅

オール関東

合同同窓会は、今年度までは四部会(燦葉会・香葉会・橄欖会・六葉会)で活動して参りました。今年から大学・短大・高校(三春台・六浦)とそしてオブザーバーとして両小学校の同窓会が参加。本当の意味でのオール関東が完成しつつあります。年一回の代議員会(総会)と年数回の幹事会・幹事長会が行なわれ、各部会の報告・現役生の活躍報告。学校法人との話し合いをもって、現役生への協力等、各部会とともに関東学院のために微力ながら頑張っています。

燦葉会からは、法人理事を、六葉会からは法人監事を、各部会からは評議員を出しています。

●オール関東学院フェア(メディアセンターにて)

●学院クリスマス(12月15日みなどみらい大ホール)

●学院の行事にも、積極的に参加しています。

から学校までの長い道のりを大汗を拭いながら通って作業を行います。でも、発行後に届く皆様からのありがたいお言葉を拝見して「また次号もがんばろうね!」と、全ての苦労は吹っ飛び、編集部員一同励まされております。そして同じように、この「香葉」が皆様にとっての励みしや、楽しい時間を提供できるものでありますように、心から願っております。

